



2024 年のタイ経済は当初の予想通り 2.5%の拡大、カシコン・リサーチセンターは 2025 年の GDP 予測を 2.4%に据え置き

ECONOMIC BRIEF

2024 年のタイの経済成長率は 2.5%

カシコン・リサーチセンター予測の 2.6%をやや下回る結果に

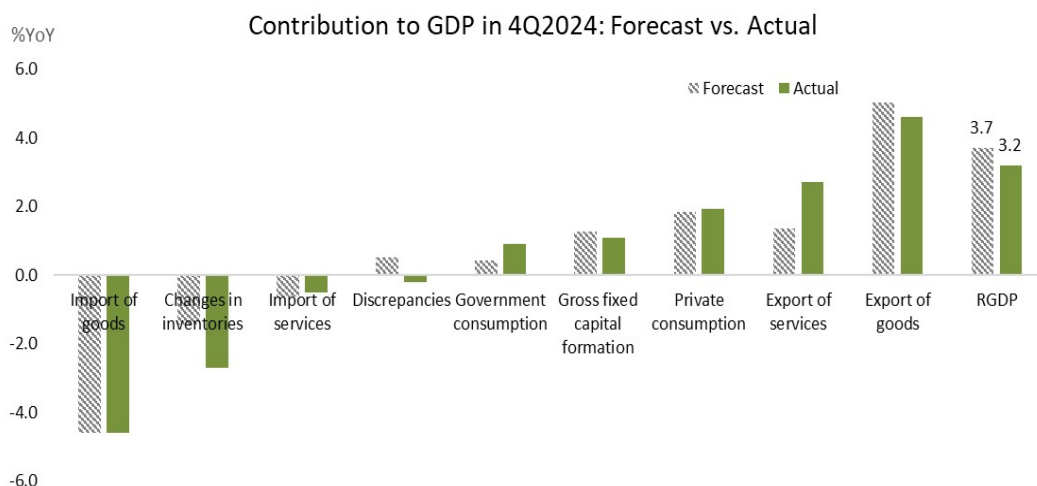
- 2024 年第 4 四半期の GDP は前年同期比 3.2%増と予想を下回ったが、これは製造業と輸出との連動が予想を下回った結果であり、在庫が前年同期比で予想以上に縮小したことが主因である。多くの品目において輸出は好調に拡大した一方で、工業生産についてはほとんど拡大せず、農業生産についても低水準で推移した。いずれも前年の 2023 年第 4 四半期においてかつてより高い水準に達した事で、その比較により低水準での拡大となった。その結果、2024 年第 4 四半期の成長率は予想を下回った。
- 結果的に、2024 年の GDP の牽引役は、第 4 四半期の低ベースからの政府投資及び消費の大幅拡大、商品輸出の増加に伴う高い貿易・経常収支の黒字、観光部門からの収入、および(前年よりも緩やかなペースではあるが)民間消費の継続的な拡大であり、2024 年全体では GDP が 2.5%拡大する結果となった。



Ms Lalita Thienprasiddhi

Head of Research
lalita.thi@kasikornresearch.com

図 1: 2024 年第 4 四半期の GDP 寄与度の比較(予想 vs 実績)



Source: NESDC, calculated by Kasikorn Research Center

カシコン・リサーチセンターは、2025 年のタイ経済は 2.4%と若干緩やかな成長率を予測。

- 米国の関税引き上げ前に輸入が加速したことや、エレクトロニクス業界の上昇サイクルによる多少の下支えはあるものの、**2025 年のタイの輸出成長ペースは鈍化すると予想される**。しかし、タイは対米貿易黒字が大きく、平均輸入関税が米国より高いため、タイは米国によるその後の関税引き上げのリスクにさらされている。米国の関税引き上げは米国への輸出を減少させる可能性が高く、一方、タイの世界市場への輸出は競争激化と需要減少に直面する可能性が高い。
- 1 万バツの現金配布や税額控除措置（イージーe レシート 2.0）といった政府の景気刺激策は、短期的には消費の押し上げに役立つかもしれないが、**個人消費の伸び率は前年より鈍化するだろう**。景気の先行き不透明感や家計債務の高止まりの中で、消費者は支出に慎重になる可能性が高い。
- **タイを訪れる外国人観光客数は 3,750 万人に増加する見込みだが**、伸び率は前年より鈍化しており、世界経済の見通し、地政学的問題、国際的な観光競争、治安へのイメージなどの不確定要素がある。
- 一方で、民間消費、輸出、観光は勢いの鈍化にもかかわらず**今年もタイ経済を牽引すると予想され**、民間投資は海外からの投資、及び前年の低いベースにより加速すると予想される。また、政府投資と消費は引き続き順調に拡大すると予想されるが、2024 年のベースが予想より高いこと、今年は国営企業からの支出が減少すると予想されることから、成長率は前回予想より低くなる可能性がある。

図 2 : カシコンリサーチセンター、2025 年のタイ経済成長を 2.4%に据置

重要ポイント	2023	2024	2025 (12 月)	2025 (2 月)
GDP	2.0	2.5	2.4	2.4
民間セクター消費	6.9	4.4	2.4	2.4
政府・公共セクター	-4.7	2.5	3.6	2.5 ↓
消費	1.2	0.0	2.6	2.7 ↑
- 民間	3.1	-1.6	2.0	2.5 ↑
- 政府	-4.2	4.8	5.5	5.0 ↓
輸入（通関、米ドルベース）	-0.8	5.4	2.5	2.5
輸出（通関、米ドルベース）	-4.2	6.3	3.4	3.4
一般インフレ率	1.2	0.4	0.7	0.7
ドバイ原油価格(平均、米ドル/バレル)	82.0	79.7	76.0	76.0
観光客（百万人）	28.2	35.5	37.5	37.5

Source: NESDC, MOTS, MOC, estimated by Kasikorn Research Center.

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。